

おれんじニュース

No280

2013年7月号



6月14日(金)梅雨の合間を縫って九千部岳へ。ヤマボウシ 98%の開花率という日。写真田村さん

今月号の感想	雲仙新道・長崎街道・黒岳・鶴見岳、鞍ヶ戸、内山、伽藍岳・九千部岳
--------	----------------------------------

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2013年7月	2013年8月	時 間	場 所
運営委員会	10日(水)	7日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館
全体集会	24日(水)	21日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館

5月12日 雲仙新ルート歩いた。ヒカゲツツジが見ごろだった。写真提供中須賀氏



長崎街道を歩いて見ました。
収穫は大きな野いちご！



ソババツケから黒岳へそして天狗岩



岩から岩へと迷路のように



天狗岩に登って天狗になった



孤独をきどってみたけど～

2013/7月の山行



部	技術研修部	ひまわり山行部	自然保護部	山行部
月・日	7月7日(日)	7月19日(金)	7月23日(火)	7月27日(土)~30日(火)
山名(行事)	久住山 (1786.9m)	一切経の滝 高岩山	八天岳(297m)	白山
地 図	湯坪・久住山	雲仙・島原	諫早南部	加賀市ノ瀬・白山
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00	西諫早駅 9:00	西諫早駅 13:30
難易度	中級健脚	初心者	初心者	中級
帰着時間	20:00	17:00	16:00	30日 8:00
歩行時間	4.5h	3.0h	4.0h	28日 3.5h/29日 7~8h
交通手段	マイクロバス	マイカー	徒歩	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	27日船中泊/28日山小屋
温泉	有り	有り	無し(?)	有り
参加費	5000円	1,000円		50000円
申込期限	定員なり次第	定員なり次第	随時	定員になり次第(12名)
集 約	佐原	林	中村	田中
備 考	リョウブやミズナラ、カエデの樹林帯を歩きます。赤水温泉から登ります。	三鉢の松を見に行こう 滝も涼しいよ	稲妻大蔵の伝説を尋ねてみよう。涼しい林の中を歩きます。	夏の花の美しい所です。まるでお花畑のようです。
感想文提出	7/17	7/29	8/3	8/10

県連だより

沢登り：：座学と実技講習会の案内

*7月1日(土) 19:00 沢登り座学
長崎市民会館第5会議室 柿木講師

*7月20日(土) 9:00 沢登り実技
黒木河川公園駐車場に集合 川原講師

申込み先・・・オレンジ鎗水



2013/8月の山行



部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部	技術研修部
月・日	8月3日(土) ～4日(日)	8月16日(金)	8月24日(土)	8月26日(月) ～9月1日(日)
山名(行事)	五木村キャンプと限界 集落巡り	富川溪谷	花咲盛(阿蘇)	白馬～五竜
地 図	宮園・梶原・頭地	諫早・多良岳	阿蘇山	白馬・唐松・五竜
集合場所	西諫早駅 6:00	諫早駅裏 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	26日 20時出発
難易度	初心者	初心者&健脚	初心者	健脚
帰着時間	4日 17:00	16:00	17:00	1日朝 6時
歩行時間	4.0h	4.0h	3.5h	5.0～8.0h/日
交通手段	マイカー	マイカー	マイクロバス	夜行バス
宿泊施設	テント	日帰り	日帰り	
温泉	無し	有り	有り	
参加費	5000円	5000円	5000円	70000円位
申込期限	随時	定員なり次第	定員なり次第	随時
集 約	佐原	林	田中	川原
備 考	バーベキューを行います。 お肉一杯食べよう!	暑い日には溪谷に行って涼しい風を楽しみましょう。	初夏の花を沢山見ることが出来ます。	アルピニストの憧れ白馬へ一度は行ってみたい
感想文提出	9/14	9/16	9/04	9/11

技術研修部だより

6月29日(土)セルフレスキューです。
西諫早駅前 9:30 集合



夏のアルプス計画

8月下旬 しろうまだけ かえらずのけん 白馬岳～不帰剣～五竜岳
(申込み川原へ)



2013年 国民平和行進長崎県コース

月・日	8/1(木)	8/2(金)	8/3(土)	8/4(日)	8/5(月)	8/6(火)
コース 西海橋 経由も あり	三川内陶器組 合(引き継ぎ) 11:30 早岐駅前 ハウステンボ ス駅前 15:20	新谷バス停前 9:40 東彼杵役場前 15:05	東彼杵役場前 9:00 大村市役所 16:00	大村市役所 9:00 岩松駅前 鈴田峠 諫早駅前 西諫早駅前 15:25	西諫早駅前 9:30 日見公園 15:40	日見公園 9:40 市民会館 12:30 爆心地公園 16:50 (終結集会)

2013年5月/6月の山行報告



5月12日(日)

雲仙新道ヒカゲツツジ鑑賞登山

(参加者) 川原、岩永、林、佐原、金丸、山口、野中、柳迫、円能寺、工藤、山下、中須賀、本田、山本、
外 (山本雄介 9歳、中村隆子、玉田峰子) (17名)

(行程) 西諫早駅 8:20—別所ダム—仁田峠 9:45—薊谷—紅葉茶屋—新道分岐—風穴—鳩穴
分岐—立岩の峰(昼食)—普賢岳(2班に分かれる)—紅葉茶屋—国見分岐—国見岳—
妙見神社—仁田峠—温泉(その場で解散式)—諫早

(感想)

緑の木々が美しく、また素晴らしい登山日和でした。

仁田峠でストレッチ体操。峠はミヤマキリシマが見ごろで、赤やピンクの花が山肌を美しく染め上げていました。あざみ谷、モミジ茶屋から新道ルートへ入ると、この辺りからヒカゲツツジがちらほらと見られました。

立岩の峰で昼食。霧氷沢では、たくさんのヒカゲツツジを見ることができました。普賢岳からモミジ茶屋へ下り、国見岳へ登る。クサリ場では、もう少し長かったら良かったと思いつつスリルを楽しみました。妙見岳から仁田峠、よか湯で汗を流して、帰路へ着きました。

今年は、天候不順のため、花の開花に差がありましたが、多くの花をみることができました。楽しい登山でした。ありがとうございました。(岩永 ノリ子 記)



国見岳の鎖場・円能寺さんのフォローがグッド・写真、中須賀氏

5月21日(火)

長崎街道歩き(永昌～大村)

(参加者) 佐原、山口、田村、林田、中村、中里、田中(紘)、森、外(橋本、松園)

(10名)

(感想)

9時諫早駅出発 しばらくは住宅地の中を歩くが、破籠井からは昔の面影を残す道に入る。長崎街道も今はここと黒崎にしか昔の道は残っていないと聞いたことがあるが、いつまでも残しておきたい道である。とても歩きやすく番所跡などを見ながら硯石に着く。ここから右折し藩境石塚や風観岳の頂上を見に行くが草が生い茂り入り口が分かりにくく時間がかかった。

誰とも会わなかったしこの道を歩く人はいないのかな?元に戻り少し早いが昼食となった。

ここからの下りは野イチゴや木イチゴが鈴なりで一生懸命ごみ拾いをしているN氏を尻目に子供に返ってイチゴ狩りをしてしまいました。しばらく下ると木がなくなり車道と街道の交差しているところが多く分かりずらく間違ったりもしましたが、よく見ると街道のほうには小さいですが松ノ木が植えてありました。この木が大きくなれば分かりやすくなると思います。住宅地を歩くと暑さが増し、旧円融寺庭園などを見学しカキ氷を食べたいなどといいながら3時35分無事大村駅に着きました。皆様お疲れさまでした。(森寿美子記)



5月26日(日)

黒 岳

(参加者) 川原、中須賀、鎗水、野中、松岡、田中(静)、山下、國分、柳迫 他(北九州・田中)(10名)

(行程) 西諫早駅 6:30—金立—太刀洗(國分さん合流)—九重—男池駐車場 9:40—かくし水—ソババツケ—風穴 12:00(昼食)—高塚山頂上 13:20—天狗岩分岐—天狗岩—今水—下山—バスに乗車—男池駐車場—帰諫 20:50

(感想1)

「ブルーな Monday」

5月27日、月曜日の早朝、前日九重の黒岳に山行した余韻が軽く心地良い疲労感で目覚め一寸アンニュイな倦怠感に襲われました。今の気持ちを自分流に表現すればビリーホリデイ(ジャズボーカリスト)の「Willow weep for me」を聴きながらハードボイルドの巨匠、レイモンドチャンドラーの小説でも読みつつ—(この人の代表的小説の主人公、私立探偵フィリップマローのセリフ(台詞)に「男は強くなければ生きてゆけない。しかし優しくなければ生きてゆく資格はない。」なんて泣かせるセリフがいっぱいあるんですね)冷めた苦いコーヒーを飲んで



いるなんていう案配かな。

アンニュイな女を演じさせたらやっぱりジャンヌモロー(仏)“一見意地悪い”かモニカ・ヴィッティー(爬虫類みたいな)でしょう。決して美人ではないのになんであんなに魅力的だったのかと思いつつ窓の外に目をやると空模様も段々悪くなってきてツバメも梅雨の到来を告げる様にせわしなく低空飛行を繰り返し始めました。ここで我に返って今日は月曜日。

月曜日と云えばまず燃えないゴミを出し、炊きあがった炊飯器のご飯をしゃもじで切って孫と娘(鬼っぼいー瞬間的若年性ヒステリックハイマーと私は診断しています)の弁当箱をセットし、更に室内の洗濯物を取り込み等など、家政夫業的日常が戻ってきました。又、次の山行までこの厳しい現実に対峙しないとイケんのかと思うと泣けてきますが男はグッと耐えてなんぼ、あの三浦雄一郎さんの様に明日に向かって強く生きて行こうと思った次第ではあります。

「緑のモミジと男と女」

今回は趣向を変えて山歩きをバックに男の性(サガ)と女の性(サガ)を鋭くリアルに追及してみたいと思いました。さて黒岳の山行はまず男池登山口が9時53分、ソババツケ(何かイタリアンな名前だと思いませんか?)という窪地を通過して山奥の古刹の奥庭の様な森を抜け急坂な道を登りきって12時ちょうどに「風穴」着。ところでその一寸前にみるからに元気そうな若者4名のパーティーとすれ違いましたが、案の定トップを務めていらっしやった山下さんが「どちらから？」と声を掛けられました所「平治迄行って、ミヤマキリシマが最高によかったです」と快活な返事が返ってきました。こういうタイプの若者に遭遇した時は必ずこういう展開になるのです。そう、雪山の大山で滑落訓練していた時もスノーボードをかついでTシャツ1枚(あの雪山の中で)汗びっしょりで登ってきたイケメンな若者2人組にも素早く声をかけられていたのを記憶しております。又、あの時も同じ様に・・・多分こういう事を書きますと「くだらん事ばかり憶えてないで山の花の1つでもしっかり憶えなさい」とお叱りの声が聞こえてくるとは思いますが、つい軽はずみなペンが勝手に走ってしまいました。深く陳謝いたします。

更にですよ、「風穴」では昼食をとりましたが先客として2名の山ガールがいたんですね。自分は遠慮してかなり離れて弁当を食べていた所、いつのまにか鎗水さんがその山ガール(特に可愛い方)と親しげに会話しつつ、その娘のかなり重そうなザックをさりげなく軽々と肩にのせてやっているではありませんか、「ムムッ、筋ヶ岳の山口では布団を寝取ったのになかなか隅に置けない奴、自分も負けぬ様ガンバランバ国体」との意を強くしました。

まあ所詮この世は男と女、あやつり、あやつられ楽しくやって下さい。

その後高塚山(黒岳の主稜)を目指しました。なかなかの急勾配の上石ころがゴロンゴロンで結構きつかったですね。山頂では素晴らしい展望を見ることが出来ました。さわやかな山風を受けながら緑のモミジが目目に染みてなかなかのものでした。

「天空に舞う勇者と岩にすぎる蟬・亀モドキ一匹」

小休止の後全員天狗岩を目指しました。2時13分、意外と速く天狗岩直下迄近づきました。そびえ立つ岩石群は自分に「セミになれ、セミになれ」と囁く様です。何とかよじのぼって上を見上げると川原さんが天狗岩の頂点付近で軽々と岩石の上を飛び回られて、「たいした事ありませんから皆さんもここまで来て下さい」と促されるのですが、セミ症候群を患っている自分としてはそうもいかず結局岩と岩の隙間を亀の様に這いながらようやく1536mの表示までたどり着く事ができました。でも國分さんは違います。重いザックを背負ったまま上り着きスックと岩の上に立ちました。さすがですね。

天狗岩の頂上ではミヤマキリシマがすぎる様に且つしっかりと岩肌をつかみ又ベニツクシドウダンも「一寸だけよ」とチラッと目を楽しませてくれました。そして全員無事下山する事ができました。

皆さんとても健脚で女性陣ではスラッと組の田中(静)さんと柳迫さんも息も切らせず、ガッチリ組のお二人(表現が悪いとあとでたたかれそう)も相変わらずバリバリで、5月入会の野中さんも「きつかったけどこれで少し自信がつかえました。」と嬉しそうに話しておられました。本当によかったですね。

そして今回はなんとといっても九重を熟知された國分さんのガイドが本当に素晴らしかったと思います。彼女の案内で無事今水に降りることが出来ました。帰りのバスの中ではまた中須賀節がさく裂して「アウン」の呼吸の「アウン」じゃなく「あーうん」「うんーあー」の名調子でみんなを楽しませてくれました。あれは芸ですね。将来無形文化財に推薦されるかもしれませんね。無事帰着が8時50分でした。

「風穴」での昼食時に川原さんから半分食べる様にアドバイスをありました。山頂に着いてからあそこで全部食べてたら相当きつかったろうと理解できました。毎回毎回本当に勉強になります。次回が楽しみです。(松岡 記)

(感想2)

風が強い天候の中、男池から10名で出発。男池の湧き水は透き通った薄い水色でした。

数名がおいしそうに飲んでいたが、おなかを壊さないか心配で飲むのを我慢。

ソババツケを過ぎ大戸越えの分岐手前で男3人組みと出会う、平治岳から来たそうで、ミヤマキリシマが八分咲きだったことを知った、平治岳に行ってみたくしたが、黒岳へ進む。

徐々に岩が多くなってきた、ソババツケから1時間以上歩きやっと風穴に到着し休憩を取る。

風穴の中を覗くと氷が見えたので中に入ってみると、ひんやりして涼しく、広さは大型バス位あった。

昼食を取ったが半分残すよう指示があった、黒岳の急斜面に備えてのアドバイスである。

ここで、松岡さんと鎗水さんの太陽堂事件の真相を知って大笑い。次の日腹筋が痛かった原因かも。川原さんが「ノートルダム のせむし男とごろが良く似た太陽堂の〇〇男だ」が耳に残る。

黒岳はほぼ真っ直ぐに登るきついコースだが皆黙々と登った。頂上は風が強く、帽子が吹き飛ばされそう、平治岳がピンク色で染まっているのが良く見えた。黒岳でも少し咲いていた。



せっかく来たのだから 天狗岩に行く事になった。

岩を積み上げた山で、まるで将棋の山崩しの上を登っているようだった。

岩に小さなミヤマキリシマがしがみつくとように咲いていた。

天狗の頂上の岩にへばりついて登ったが、立つ事は出来なかった。まだ修行が足りない。

黒岳を下山し今水駐車場の方へ進む。途中たぬきと遭遇にびっくり。

何百年かかけて巨大な岩を割りながら立っている樹木や、岩を抱えて立っている樹木が、あちこちに見られ、生命力の強さに圧倒された。

国分さんのガイドで迷わず今水駐車場へ到着。近くに炭酸水が飲める所がありのどを潤した。約15km歩いたが、まだ元気なオレンジハイキングクラブの皆さんでした。

無事に到着でき、楽しい1日を過ごさせていただきありがとうございました。

(北九州・田中英史 記)

6月8日(土)

鶴見岳・鞍ヶ戸・内山・伽藍岳

(参加者) 鎗水、林、佐原、中野、福岡、山下、下釜、高森、田中、岩永、久保(元)、久保(陽)
他(酒井)、佐賀芳山(今泉、直塚) (15名)

(行程) 鶴見岳 10:10~馬の背 10:32~鞍ヶ戸 11:32~花の台(昼食)12:28~新道船底分岐
12:34~船底 12:50~内山~塚原越 14:20~伽藍岳 14:41~塚原温泉 15:20

(感想)

今回の山行はロープウェイで鶴見岳まで一気に登ったので、窓から景観を楽しめた。鶴見岳からは左に雄大な由布岳の姿を見ながら、フラット気味の稜線を歩く。ミヤマキリシマがきれい。馬の背を過ぎるとやせ尾根の急坂が時折あり、ロープや枝を掴みながら上がったり、下ったり、梯子もあった。鞍ヶ戸から尾根伝いにドンドン降りた。後ろを振り向けばミヤマキリシマの群落がきれい。次は急な下りの上、黒土の道は滑りやすい。ロープや木の根っ子を掴んで慎重に船底に下った。下ったと思ったら今度は急登。振り返ると船底が小さい。内山頂上着。由布岳、鶴見岳、鞍ヶ岳が見える。縦走路を北進し伽藍岳へ向かう。しばらくは尾根の緩やかな下り坂で気持ちいい。塚原越えに向かってまたして急降下。ドンドン降りると緩やかな下りに変わり前方に伽藍岳。塚原越えから広い道路を歩いて緩やかな傾斜を登ると伽藍岳山頂。縦走してきた山々が見える。日本三大名湯である塚原温泉で1班と合流。酸性度2位の温泉で汗を流し、帰りの車中で喉を潤した。今回は下りが中心の山行?随所で急降下があり、滑りやすく緊張の連続だった。お疲れ様でした。



お疲れ様でした。(田中静 記)

鶴見岳～塚原温泉(1班感想)

花の台で昼食をとり1班と2,3班は別コースへと分かれました。さあ、ゆっくり、のんびりと山を楽しみながらと一人ニンマリとしていると、先頭に行くY氏の「ウワー」の叫び声にビックリ。「ナンダ。」と思いきや山の主(蛇クン)のお出ましです。Y氏、さすが強女の集まりでもこれとは思われたのか「左を見ないほうがいいですよ。」と忠告。それでも見たがる人もいましたが、私はこればかりは苦手ですので



心の中で「どうか私も見ませんから、私を見ないで」と願いながらすばやく？通り過ぎました。見た人の話では1,5メートルはあったとか、いや2メートルはあったとか。やっぱり忠告を守ってよかったと胸をなでおろしました。蛇騒動の後、本格的な山道に入りました。様々な岩や石がごろごろしている中、全神経を集中して歩かないと転び、捻挫ですめばいいけど骨折もありなんと必死でした。涸沢には土石流のためか根こそぎ流された大木に新緑をつけ、花までつけている5,6本の本木を発見。自然の力強さに感激、生き方を考え直させられるような気持ち。

そのような涸沢を2度わたったり、道もはっきりしない中、みんなの安全確保に気を使ったり、道を確認したりとリーダーは大変でした。花の台まではミヤマキリシマ、ドウダンツツジ、山法師などの花にみとれ、カメラに収めたりしながらの歩行でしたが、分かれてからはそんな余裕はまったくありませんでした。

しかし、時々視線をあげると新緑のトンネルがどこまでも続き、さわやかな風が吹いていました。急坂はなく緩やかにくだり道ばかりでしたが、岩や石がゴロゴロした道が最後まで続き、



決して楽なコース1班ではありませんでした。しかし、全員怪我もなく予定より早く塚原温泉にたどり着きました。塚原温泉はこれまでの温泉とは趣を変えた古式豊かな？温泉でしたが値段だけは600円と現代版でした。

やっぱり温泉につかると疲れが取れるのは不思議です。難点はシャンプーや石鹸が使えず、頭と顔が洗えなかったことです。楽な道と思って選んだ1班でしたが山は甘くなかった。
(中野 記)

6月14日(金)

九千部岳(1062m)

(参加者) 小山、川原、兵庫、鎗水、田村、林、山下、松尾、松岡、円能寺、金丸、下釜、中野、川内、佐藤、
(外) 吉川、林(和)、本田 (18名)

(行程) 西諫早駅前 9:05—田代原キャンプ場駐車場 9:40—九千部岳頂上 12:50—同所付近発
13:30—田代原キャンプ場駐車場 15:30—よか湯 15:55—同所発 16:55—西諫早 18:30

(感想)

会員外3名を含む総勢18名は、4台の車に分乗して9:05西諫早駅前を田代原キャンプ場駐車場目指して出発し、同駐車場に9:40に到着した。空はどんよりと曇ってきた。早速、山下さんの指導のもとに準備体操を、「ホーホケキョ」「ホーホケキョ」と鶯の声を聞きながらはじめた。

空は曇っていたが、周囲の山々の斜面は、青葉、若葉に覆われ、鶯等の小鳥の鳴き声が聞ける環境、最高にいい気分になることができた。

準備体操が終わった後、1班と2班に分かれ、鎗水さんの先導のもとに1班が9:50田代原キャンプ場駐車場を九千部岳を目指して出発した。

登り始めたころは、緩やかな山道であったが、出発して20分ぐらいしたら、急に険しい山道となった。

田村さんの「よいしょ」「よいしょ」との掛け声を聞きながら一步一步大地を踏みしめ、「牛に曳かれて善光寺参り」ではなく、田村さんの「掛け声に惹かれて九千部登り」ということで、久しぶりの山登りであったが、落伍することなく皆さんに付いていった。

登っている途中、山の斜面に霧に包まれた「ヤマボウシ」が目飛び込んできた。幻想的な風景であった。

1000mの標識柱の所に差し掛かったころ、「あと60mか」と誰かの声が聞こえた。湿度が高い天気だったので、汗がにじんできていたが、その頃から汗が体内から噴き出して来て着ているシャツがびしょ濡れ出した。

天気も頂上近くになって来たら、だんだんと晴れてきて、霧に包まれていた平成新山も姿を現した。

頂上に12:50頃着いた。頂上から眺める付近一帯の山々の斜面は一面「ヤマボウシ」。見事なもので、「こんな「ヤマボウシ」は見たことが無い。」との歓声があがっていた。



やがて弁当を食べ終わったので、13:30頃下り始めた。下りは別の山道で、特別急な山道ではなかった。しかし雨水のせいか石ころだらけの山道であったが、誰一人すべり転ぶ人もなく全員無事田代原キャンプ場駐車場に到着した。

途中、川原さんと山下さんから、山道の近くに咲いていた草花の名前を「これは〇〇の花ですよ。」「これは△△の花ですよ」と親切丁寧に教えて頂いた。



帰りは雲仙の「よか湯」で汗を流し、小浜温泉の街路樹「ジャガランダ」を車窓から眺め、車は一路諫早へと走行を続け18:30頃山川町のバス停に着いた。

私は久しぶりの参加であったが、皆さんから温かく迎えていただき、天気は曇っていたが雨に降られることもなく「ヤマボウシ」も満喫できたし、楽しい一日を過ごすことができた。

末筆になりましたが、車を提供していただき、お疲れのところ、運転して下さった4名の方、有り難うございました。

(佐藤 記)



5月12日 雲仙



5月26日 黒岳 2013.05.26



ベニツクシドウダン・黒岳・写真・田中氏



九千部岳のヤマボウシ・98%の開花率



梅雨時ワンポイントアドバイス

*じとじとした梅雨時には山の道具もじっとりしています。狭い部屋に除湿機をかけてストック(接続部をバラして)、ザック(中を開けて)、雨具などを乾燥させましょう。

	おれんじニュースNo280
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2013.6.26
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://zd1307.s11.zdrv.com/wp_orange/

この頃は皆さんから沢山写真をいただきます。全部を紙面で紹介したいのですが紙面も限られていてそうもいきません。沢山のご協力ありがとうございます。表紙は涼しげなヤマボウシです。梅雨のうっとうしさを解消してください。